

学び続ける教師コミュニティ

2022 夏 教育実践福島ラウンドテーブル

今日、福島県の教育には、「ふくしまの未来を創造する子どもたちの育成」が求められています。こうした中、教員を目指す学生や教職員には、地域と世界に視野を広げつつ、すべての子どもの成長や学習に目を向け、対話と省察を重ねながら、実践に裏打ちされた自らの教育理論を構築することが重要になります。

このため、福島大学大学院人間発達文化研究科では、福島県教育委員会との共催により、全県的な「教育実践福島ラウンドテーブル」を年2回開催し、院生の報告等をもとに教育関係者(教育委員会、管理職、一般教員、大学教員、保護者・市民等)と交流し、実践上の成果だけでなく悩み等を話し合い、県全体の教育力向上を図るとともに、「学び続ける教師コミュニティ」を創ってきました。なお、最近ではオンラインによる開催になっておりますが、参加者の皆様からは、「遠方からの参加が可能」「移動時間を省略できる手軽さ」「コロナ感染防止」など、その良さについても感想をいただいております。今回もオンライン開催となりますが、初めての方でも自宅で気軽に参加できますので、多くの方の参加をお待ちしております(写真:2022 春ラウンドテーブルより)。

2022

8・27 (土)

-10:00~16:00-

オンライン(Zoom)開催



主催 福島大学大学院人間発達文化研究科

共催 福島県教育委員会

後援 福島県市町村教育委員会連絡協議会 福島県都市教育長協議会 福島県町村教育長協議会 福島県小学校長会
福島県中学校長会 福島県高等学校長協会 福島県特別支援学校長会 福島県国公立幼稚園・こども園協議会
福島県私立幼稚園・認定こども園連合会 福島県私立中学高等学校協会 福島県公立学校退職校長会
福島県 PTA 連合会 福島大学人間発達文化学類同窓会

【午前の部】 全体 (事前に午前の部の会場 URL をお送りします。9:30 から開場しています。)

10:00~10:10 **主催者挨拶 初澤 敏生**(福島大学人間発達文化研究科長)

10:10~12:00 **基調講演「別室登校法とチーム支援の機能分析」**

講師 中村 恵子 先生(東北福祉大学 総合福祉学部 准教授)

【研究領域等】 学校心理学 博士(カウンセリング科学)

【略歴】

- ・筑波大学大学院人間総合科学研究科生涯発達科学専攻博士課程修了
- ・練馬区福祉事務所次世代育成事業(厚労省モデル事業)スーパーバイザー(2010~2017年)
- ・筑波大学心理・発達教育相談室相談員(2012~2017年)
- ・第1回茗溪賞(筑波大学 2013年)
- ・学校カウンセリング松原記念賞(日本カウンセリング学会 2015年)
- ・学校心理士スーパーバイザー、カウンセリング学会認定スーパーバイザー
- ・日本カウンセリング学会理事、日本ヒューマン・ケア心理学会監事など

【主な著書】

- ・不登校支援の学校心理学プラクティス:学校と適応指導教室で活用する集団社会化療法と別室登校法(ナカニシヤ出版 近刊)
- ・学校カウンセリング第3版:問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション(ナカニシヤ出版 2021年)



【講演概要】 不登校とは、子どもの学校適応に対する支援の失敗を物語っている。日本の教育制度では、担任が子どもケアをマルチに担うので、子どもの学校適応の危機に担任の支援が奏功せず、さらにその担任をサポートする校内支援体制の機能不全の結果として不登校が起きる。即ち、不登校の背景として子どもの問題だけでなく支援体制の問題を読み解くことが必要である。そこで本講演では、別室登校の子ども支援を例示し、その支援プロセスでチーム支援の機能分析を行い、チーム支援体制の変化と支援対象生徒の変化の運動について紹介する。

12:00～13:10 昼食・休憩（参加者各自の計画で・・・）

【午後の部】グループごとに（6人程度のグループに分かれます。事前に参加するグループの URL をお送りします。13:00から開場しています。なお、終了はグループごとになります。）

13:10～16:00 ラウンドテーブル

「教育実践福島ラウンドテーブル」は、福島大学教職大学院生や県内外の国公立保育所・幼稚園・認定こども園、小・中・高等学校、特別支援学校、教育委員会等に勤める教職員、さらには、保護者や市民等が、それぞれの立場による実践や悩み等を交流する場を提供する「学びのコミュニティ」です。日々の教育活動や課題、悩み等について自由に語り合います。

今回は Zoom で少人数グループの会場に分かれ、教職大学院生の報告や参加者の実践等をもとに交流を深めます。

ラウンドテーブルの魅力

～ 参加された方々の感想:参加者アンケートから ～

◆ 前回(2022年春2月開催)の参加者アンケート(回答数 80人:回答率 72.1%)の概要をお知らせします。

① 4段階評価:「参加されていたかがでしたか」については、参加して「大変良かった」90%、「良かった」10%となり、これまでと同様に高い評価をいただきました。



② 基調講演の感想

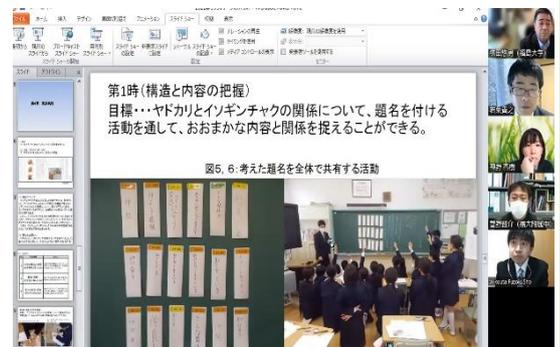
● 現在本校でも ICT の活用を推進しているので新しい授業の在り方について考えるきっかけとなった。GIGA スクール構想における授業は、タブレット端末を既存の学習(授業)スタイルに当てはめていくものではなく、タブレット端末の活用をベースにして学習(授業)を構築していく必要があることが理解できた。学びの本質的なところ(目的)は変わらないが、授業(手段)の部分で大きな変化が今後生じてくる。我々の授業観について再度、見つめ直し同僚と共有していくことが早急に必要であると感じた。

● 一人一台端末の活用と言うと、難しい感覚もあり、現場の先生方も抵抗がある先生も多いということを自分の職場をみて思っていました。しかし、難しいと考える前にまず慣れてみることで、使ってみることが大切であるということがわかりました。

③ ラウンドテーブルに参加して

● 先生方の取り組みを知ることができ、大変参考になりました。また、報告についてたくさんのアドバイスをいただき、ありがたかったです。研究を進める中で、自分が引っかかっていることや悩んでいることについて、ご指摘をいただきました。

● 校種の枠を超えて様々な学びの実態を知ることができる大変貴重な時間となった。昨今のコロナ禍では研究公開や講演等のインプットをする場が減少していることもあり、各実践報告から生かしていきたいことを多数見付けることができたのがよかった。



報告者募集！(ミニレポート報告)

● 普段取り組んでいることや悩み、疑問など、グループ協議の中で実践報告として話題を提供して下さる方を募ります。報告資料は、ペーパー1枚程度の簡単なものでも結構です。報告資料の取り扱いについては、後日お知らせします。当日は、本学の院生20名も、これまでの学びの道のりを報告します。

◇ 参加申し込み方法 ◇

本学の間人発達文化学類 Web ページ(<http://hdc.educ.fukushima-u.ac.jp>)の「**2022夏 教育実践福島ラウンドテーブル**」の申し込みフォームから、**2022年8月5日(金)までにお申し込みください**。

ご不明な点はお問い合わせ先にメールでお知らせください。QRコードから Web サイトにアクセスできます。

***今回はZoomによる開催となります。**

事前に参加方法についてお知らせしますので、**メールアドレスを必ず記載**願います。安心して気軽にご参加ください。

【お問い合わせ先】 福島大学人間発達文化学類支援室

TEL: 024-548-8103 FAX: 024-548-3181 Mail: ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

